

「和」の心を大切に

有限会社 亀末廣 代表取締役社長

吉田 敬三氏



一番指名の多い「茶三昧」こぼれ話

—4代目になられると思いますが、創業の経緯について教えてください。

父は名高商（現：名古屋大学経済学部）を卒業後、三井銀行で働いていましたが、戦争になり主計中尉として陸軍に行き、戦後シベリアに抑留されていました。昭和22年に復員、23年に結婚して兄が生まれました。しばらくは統制経済で商売ができず、戦前にいた職人さんたちが戻ってきてからは千種区で細々と商売をしていたようです。

創業は明治29年ですが、戦後、この場所で和菓子屋として商売をできるようになった昭和29年に法人登記しました。

もともとは京都の菓子屋で、名古屋に分家してから120年ほどになります。最初は京菓子をそのまま受け継いで、丸の内（魚の棚辺り）で商売をしていました。料理屋さんや商売をしておられる方々が周りに大勢おられましたので、結婚式のご披露宴を料理屋さんでされて、引き出物としてうちの和菓子が使われるようになり、口伝えでお客が増えていったようですが、小さい割に値段が高いということで、最初は受け入れられるのが難しかったと聞いています。

それでは良くないと、大正から昭和初期頃からは、2代目のときに創作した比較的尾張風の餡にした「茶三昧」が主力商品になりました。京都の本家にはないお菓子で、最中のようなものです。普通、最中の種（＝皮）は米粉で作るのですが、「茶三昧」は種を高キビの粉で作ります。高キビは焼くことによって香ばしさが出ます。当店の餡の中で一番美味しいのはこの「茶三昧」だと私は思っているのですが、塩気が入っていて種との調和がよく、オールシーズンある指名の多いお菓子です。

ただこの種はうちで焼くのではなく、種を専門に焼く職人さんが、お父さんと息子さんだけでやっていたのが、相次いでお二人が亡くなってしまったのです。レシピも配合や粉の碾き具合なども一切残ってなくて、3代目の父もなかなか気に入るものができませんでした。これでいこうと決めたのが、この

取材日時／平成22年11月29日(月)
14:00～15:00

取材場所／和菓子 亀末廣
ききて／武藤 俊明・岩田加津子・
古市晴比彦・清水 正彌



お菓子が一番好きな3代目の母（2代目の妻）の「これならええやろ」の言葉をもらったときで、約10年後によく復活しました。

物心ついたときから 手取り足取り教えてもらいました

——小さい頃から職人さんやお父様の姿を見てお育ちになったと思います。どのような印象をお持ちですか。

物心ついたときから、餡練りを職人さんに教えてもらいました。今は機械も使いますが、昔は全部手作りでしたから、小豆を釜で煮て、ヘラで手前の餡が焦げないようにかき、その熱い餡に冷水をかけて篩（ふるい）で漉したものを絞りに入れてテコの原理で絞るのです。

高校くらいになって、ようやく和菓子を作らせてもらいました。餡を包む皮を均一にするとか、「きんとん」は芯になる餡に網で漉した餡を箸で寄せて形作るのですが、いかに形良く少ない回数で仕上げるか、練習いたしました。

古い頃の職人は口数が少なく「見て覚えろ」ということになりませんが、私は経営者の子どもですから手取り足取り教えてもらいました。実際に修行に来た人は、最初は餡も触らせてもらえませんが、5年ほど経たないと生菓子作りなどには携わらせてもらえません。一人前になるには10年がひとつの目安みたいところがあります。いまは職人さんのなり手が少ないので、そうは言っておられず、手が空いていると「やって覚えなさい」という御時世になってきました。

家を継ぐ前に東京で就職

——いつ頃、お継ぎになることを決められたのですか。

兄は父に似て頑固で、父が車が好きでしたから兄がそれに影響を受けたのだと思いますが、学校で勉強した工業デザインを

生かした仕事をしたいということでカーデザイナーになってしまいました。

私が大学を卒業する頃に父が急性肝炎になりました。快癒したのですが、そのとき覚悟しました。

普通、どこかの和菓子屋さんで修行するのでしょうか、私は大学で食品化学を学びましたから、ちょっと近代的なものということで東京のアートコーヒーに入社、研究室でコーヒープレンダーとして4年ほど勤めました。

東京は刺激の多いところで、老舗の和菓子屋さんもありますし、美味しいものが集約された土地という印象でした。月に1回、給料日に少しぜいたくをしようということで、当時の有名店を食べ歩きました。初めて「すきやばし次郎」（ミシュラン三ツ星）に行ったのは大学を出てすぐのときです。銘菓はデパートでも買えますが、本店の雰囲気を知りたいと思って行ったりもしました。

アートコーヒーに就職して一番感じたのは「食・味」の世界には共通性があることです。ブラジル産のコーヒーを同じ商社から買って、焙煎のプロが同じように豆を炒っても味が変わります。天候、乾燥具合、現地の気象条件などの複合要因で味が変わるのでと思いますが、同じ原料を買っているつもりでも味が変わることがショックでしたし、難しさと面白さの両方を学びました。和菓子も同じように、豆や粉など農産物を扱います。うちを継いだとき、問屋さんから同じように仕入れても、常に安定した味でないということを前提として味作りにとりかかりました。

聞き伝えは聞き逃さないように記憶

——バトンタッチされたときにお父様からアドバイスはありましたか。

先代は店にいるのが好きな人で、よく怒られたというお客様がいっぱいおられます（笑）。お菓子が一番大事で、その方に一番相応しいものを用意したいというのが、そういう言葉に



なると思うのですが、もう少し柔らかい言い方がいいですね（笑）。私は反面教師にしていますから、「すっかり優しくなって」と言われます（笑）。それは冗談ですが、言っていることは筋が通ってしまって、古い話は逆立ちしても二度とその話を聞けませんから、聞き伝えは覚えなければいけないと思っています。

1年間を通しての年間行事、元旦、3月3日、5月5日等、奇数の並ぶ節句のお祝いを最近のご家庭でされなくなりましたが、大切に守っていかねばと思っています。

あとは結婚式等のお祝い事のときに気をつけることなど、とても父は気にしました。引き出物のご注文は、切るものを連想するものはいけなとか、冬の名物「うすらひ」は氷の亀裂を表現したお菓子です。氷は割れて溶けて流れるので結婚式には適しません。

それを知らないで、「うすらひ」が好きだからと結婚式や結納などのときに使われますとまずいですから、父はお客様に用途をお尋ねしていました。

そういうことは大切ですから受け継いでおります。例えば、お母様とお嬢様と買いにいらしたときは、お二人で相談してお決めになる大切なお菓子と察して、お使い道をお尋ねします。「今日、初めて先方の親御さんと会う」とか、ご結納のお菓子とかお聞きしますと、訳を申し上げて、最終的にはお客様にお決めいただいています。

また黒い服をお召しになってご来店されましたときも、用途をお尋ねして、それに合わせた仕様にさせていただきます。父は粗相があることを心配して、常に店に立つようにしていましたし、多店舗にしなかったのだと思います。

木型など焼失したときのショックは大きかったようです

——お菓子の木型、焼き型などたくさん保存しておられるので

しょうね。

父や2代目は、戦前の店の地下壕に保管してあった木型が焼失してしまったときのショックは大きかったようです。

焼き印は、いつもお願いしている職人さんが千種区におられますが、職人さんが少なくなりましたので注文が殺到するでしょう。注文してから1カ月以上かかりますから、宮中の歌会始めのお勅題のデザインは11月の始めには注文しないと間に合いません。

木型はもっと深刻で、名古屋には職人がいません。関西に数件と四国、九州におられるのですが、職人さんの数は減るばかりです。狂ってはいけな堅い材料を彫る大変なお仕事で、継承者がいないのは頷ける気がします。

——名古屋の和菓子の特色は？

食べた充実感があるのが名古屋のお菓子です。

名古屋には松尾流というお家元がいらっしゃってお茶の文化がありますし、もっと溯れば尾張徳川家のご当主がお茶がお好きで、ということはお茶菓子がお好きということで庇護をいただいで、和菓子屋さんが繁盛しました。

和菓子は材料の種類が少ないので、ひとつひとつが貴重

——素材の移り変わりはありますか。

栗は利平や銀寄など大粒の銘柄が主流で、現在それを上手に栽培しているのが熊本県と宮崎県です。色々、試した結果うちは熊本県産のみを使用して、そのストックが終わると栗を使った菓子の生産はストップします。

小豆の名産地は「丹波の赤小豆、備中の白小豆」と言いますが、丹波の小豆の生産者の後継者が少なくなり、最近では丹波と地続きの京都、兵庫、岡山でいい小豆が収穫できます。

備中では白小豆から赤小豆に転換する農家が増えて、さらに白小豆が貴重になってきました。うちは備中の白小豆は粒餡と



して使い、漉し餡用は北海道産を使っています。

難しいのは和三盆と黒糖です。

和三盆というのは、盆の上で3回研いで精製するという事から名付けられた物です。四国の製糖所から良質なものを供給していただいています。

白い和菓子「うすらひ」や上用饅頭は「薯蕷（しょうよ）」が由来の字ですから「山芋を材料に使う」と父から教わりました。うちは伊勢芋で作ります。

伊勢芋はデパートでお歳暮に使われるようになってから、極端に品薄になり、主力商品の「うすらひ」が作れなくなるのではと心配しています。好きな人は待ちかねてくださいますので、「これからは数量限定」などと言うと、お叱りを受けそうですが、和菓子は材料の種類が少ないので、何かひとつ失うとできなくなってしまう恐れがあるのです。

黒糖は、土地柄で微妙に味が違い、沖縄産といっても島ごとに味が違います。

もち米粉とうち米粉は業者から買いますが、事故米混入事件の際は心配しました。結局は信用できるところと取引すること、日ごろの人間関係が大切だと思います。

——お菓子には賞味期限がありますので、年末・お正月はお忙しいですね。

お正月用の生菓子は31日に販売します。30日は餡を作り、夜中に製品に仕上げ包装して、9時の開店に間に合わせます。お正月用の干菓子や飴菓子（有平糖）など日もちするものは、もう少し前から用意します。1月5日から仕事始めです。

3 回味を確かめ 4 回目でワイン会

——ご趣味は？

食べ歩きでしたが、去年の8月に2年ぶりに人間ドックを受けましたところ、「痩せるように」と言われて、朝は寒天ダイエットや、ひたすら食べないようにして（笑）、半年で10キロ体重を落としました。

ダイエットをしていますと1食もおろそかにできません。食べたいものがあれば予約を入れて食べに行きます。名古屋で新しい店ができると、私の信頼できる舌の持ち主二人に聞いて、私が行って、私はワインが好きなので毎月ワイン会を主宰していますから、自分が美味しいと思った店には「ワインの持ち込みはできますか」とお願いしてワイン会を開催しています。

——健康法はいかがですか。

運動はゴルフだけです。以前は痩せるために、テレビを観ながら10分間踏み台昇降をしていましたが、太っていたときだったからでしょうね、膝が痛くなってしまいました。万歩計を娘に買ってもらいましたが、会社で働くだけでは3千歩から5千歩ですね。ゴルフをすると1万2千歩くらい歩きます。

——座右の銘は？

仕事柄、「和」ですね。平和、和む、調和、いろいろな和です。——法人会は公益法人を目指していろいろな活動をしています。ご感想をお聞かせください。

申し訳ないのですが、最近休みがちで、何の貢献もしていません。青年部会のおきにお誘いいただいて役員をさせていただいたり、しばらく活動していましたが、経営研究会の役員を頼まれましたときに、私が別の会の幹事をしていたのでお断りしてからは、つい足が遠のいてしまいました。

事業のご案内は毎回拝見していますが、3部会合同の会などは単一では企画できない素晴らしいイベントですので、法人会会員以外の方もお誘いできるようになると、いいと思います。——今日はお菓子にまつわるいろいろな話を聞けまして、楽しい時間でした。これからの益々のご繁栄をお祈りしております。

調査部所管法人部会税務研修会

日時：平成22年10月20日(水) 14:30～17:35
会場：中日パレス5F「カトリア」

講師：

〈第一部〉

名古屋中税務署法人課税第一部門統括国税調査官 **栢原 弘行氏**

「誤りやすい源泉所得税の取扱いについて」

名古屋国税局調査部調査審理課長 **朝倉 修氏**

「平成22年度税制改正について」

〈第二部〉

名古屋国税局調査部部長 **湯浅 豊生氏**

「税務雑感」～インドネシア勤務の経験から～

来賓：名古屋中税務署署長 **鈴木 久市氏**

名古屋中税務署副署長 **松井 運仁氏**

情報交換会：同日17:45～19:155F「エンゼル」

乾杯の音頭：寿証券代表取締役社長 **小森 栄三氏**



栢原 弘行講師



朝倉 修講師



湯浅 豊生講師



スライド／インドネシア

第一部は、低迷する雇用情勢にあって、中途就職者と外国人労働者の数は意外と多いことから、それらの源泉所得税の取扱いの誤りについて研修した。特に中途採用者の直前までの給与の把握を怠ったケースや、海外支店勤務者の給与計算期間の特例事項の取扱いのミスが多くみられる。

引き続き、グループ法人税制と国際課税関係の改正を主体に平成22年度の税制改正のポイントを学んだ。

冒頭、大増税で話題となったタバコについて触れ、表向きの増税の理由「国民の健康と医療費の抑制」とは別に、趣味・嗜好は課税しやすいと各国政府の財源確保に向けたユニークな税制が紹介された。米国ネバダ州のラスベガスのギャンブル税と売春税、カードゲームのトランプ税も、ばくち好きな英国人を対象に考案された賭博税である。トランプのスペードのエースの形が納税証明の印章であることも知った。

第二部は、JICA (Japan International Cooperation = 日本国際協力事業団) の専門官派遣プログラムの一環としてインドネシアに赴任した経験談であった。

JICAといえば、事業仕分けの連舫議員によって、カザフスタン・北京の大使館に派遣されている職員の住む豪華な暮らしが槍玉に挙げられた。現在、各国の資金援助はIMF (International Monetary Fund = 国際通貨基金) が主体で、人材育成はJICAが受け持っている。

講師の体験談は、インドネシア政府の役人を相手に開催する各国のセミナーのテーマの違いを取り上げ、開催国の国民性と国情がストレートに現れて、興味深く聞くことができた。

役人を喜ばせることに奔走して、自国の利益を優先する中国に、そのしたたかさに改めて驚かされ、それに反して日本は、国中に蔓延する汚職の撲滅をテーマにしたセミナーを開催して、「スネに傷のある多くの役人たちから敬遠される」と聞き、日本人の生真面目さに苦笑させられた。

一方、インドネシアはASEAN (Association of South-East Asian Nations = 東南アジア諸国連合) の中で、GDPが一番の高度経済成長国で、人口は2億3千万人と世界で4番目に多く、国土も日本の5倍。日本とは経済連携協定が結ばれ、多くの優秀な看護婦が日本へ働きに来ている。凶悪な犯罪も少なく治安が保たれている。

「重病になったとき、近くに高度医療を備えたシンガポールがあり、すぐに移送できるから、助かることがあり、恵まれています」とインドネシアの医療事情を披露。

人口の多さを物語る理由に、インドネシアでは15歳から出産することを挙げられた。

島国インドネシアのエピソードにも驚かされる。人口と同じように島の数も正確には分からないようだ。それほど多くの島々があるインドネシアでは、島の土を削ってシンガポールに売る商売が横行して、次々と島が消えている不思議な現象が発生したようだ。シンガポールの面積が年々増え続けていると統計で報じられて判明。増え続けている背景に、「シンガポールに住む華僑たちが、いつか発生するクーデターに備えて、大型クルーザーで脱出するための港を造るための土砂として買っている」と聞き、華僑の凄まじい商魂ぶりに驚いた。

初心者のための源泉所得税研修会

日時／平成22年10月15日(金) 13:30～15:30

会場／中区役所ホール

～源泉所得税の取り扱い～

講師／名古屋中税務署法人課税第七部門源泉所得税担当

統括国税調査官 **刈本 健治氏**

審理専門官 **伊藤 善晴氏**



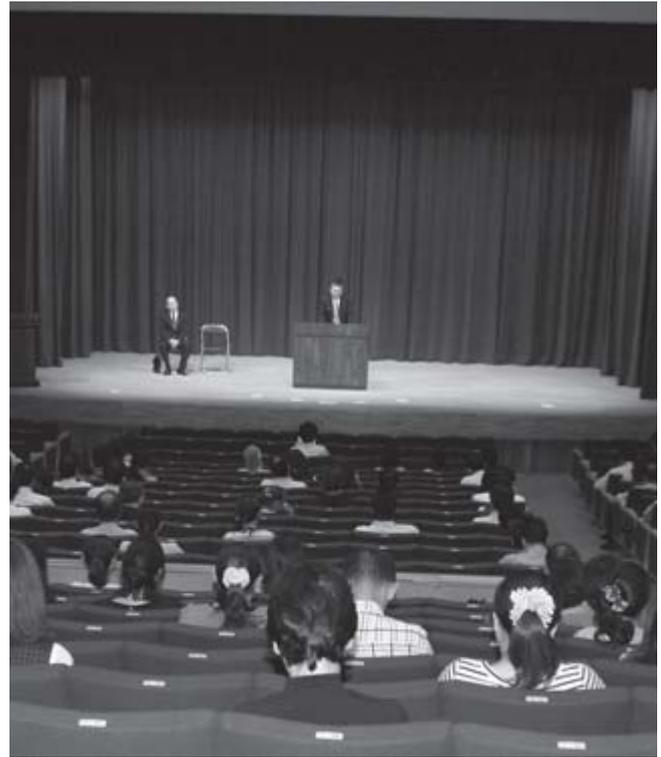
刈本 健治氏



伊藤 善晴氏

源泉所得税事務の取り扱いは、全従業員の給与に影響する会社の重要な仕事となっている。どんな場合に源泉徴収をしなければならないのか、また、源泉徴収の対象となる所得にはどのようなものが含まれるのか等について、源泉徴収漏れを生じないように十分な知識が必要となる。

この研修会は、初めて給与事務を担当する初心者を主体に、扶養控除の見直し等が行われた平成22年度税制改正に基づく源泉徴収のあらましと実務を学ぶ内容となっている。



中区役所ホール

景気討論会「景気、年明け緩やか回復」

日時／平成22年11月9日(火) 13:30～15:30

会場／名古屋観光ホテル

主催／日本経済新聞社 協賛／名古屋中法人会

パネリスト／

中部経済連合会会長 **川口 文夫氏**

日本銀行名古屋支店長 **前田 純一氏**

シティグループ証券チーフエコノミスト **村嶋 帰一氏**

日本経済研究センター理事長 **岩田 一政氏**

司会／日本経済新聞社東京本社編集局総務 **原田 亮介氏**



パネリストたちは、急激な円高が国内景気に及ぼす影響や、米国や中国などの経済動向について活発な意見交換を交わした。

川口氏は、輸出依存の高い中部の厳しい現状を「円高・雇用なお打撃」と指摘、法人税の引き下げなどで、企業の負担を軽減して国際競争に太刀打ちできる施策を提言した。

前田氏は、10～12月期の成長率は前期比マイナスもありうるが、企業の損益分岐点は下がっており、「来年もプラス成長」と予測。

村嶋氏も、米国の企業部門が比較的堅調で設備投資も増加基調にあり、新興国の景気好調が続けば、輸出増となり「米

景気は底打ち」と判断。

一方、岩田氏は、米景気の底打ちの条件として、米国が年末に期限切れを迎える『ブッシュ減税』が継続されない場合、米国の成長率を2%下げる影響があると、「米、減税継続が焦点」と発言した。

パネリストの意見を集約すれば、エコカー補助金制度の終了などの影響で、景気は踊り場を迎えるが、年明けには緩やかな回復基調に戻るとの意見が多く、平成22年度の実質国内総生産（GDP）成長率を2%程度。平成23年度は1.5%程度とする予測が大勢を占めた。

日本の改革がもたらしたもの

私は政治・経済にあまり興味がありませんでした。30年前に亡くなった父、作家の新田次郎ですが、生前に「お前は政治、経済については発言したり書いたりするな。あれは醜い世界だ。美しい数学、文学をやってればいい」と言われて、父の遺言として守ってきたからです。しかし、この10年ほど前から政治、経済に口を出しています。それは、日本の改革が政治、経済を壊し始めただけでなく、日本の国柄まで壊し始め、我慢できなくなったからです。

では“日本の国柄”とは何でしょうか。

第一に挙げたいのは、世界を圧倒していた初等・中等教育です。工場の末端労働者まで字が読め、ボスの考え、経営者の思想、思い、希望を読み取ることができ、そして改善点があれば提案できました。そんな労働者は世界中にいません。

江戸の初期、日本の識字率は全国平均で50%（男性70%、女性30%）でした。その頃、世界でもっとも進んでいると言われるイギリスのロンドンは25~30%でした。日本には藩校、寺子屋、私塾や手習い所があって、武士、町民、農民が勉強していたのです。ロシアは1900年になってやっと20%になりました。日露戦争（1904~05年）で戦ったロシア兵は字を読めなかったということです。

算数も世界一でした。1628年に京都で吉田光由という数学者が『塵劫記』という本を書いています。彼は足し算・引き算などソロバンを使っての計算や、数字の読み方を統一しました。室町時代までは一十百千万億兆の単位だけでしたが、万と億、億と兆の間に十、百、千を入れ、世界で最も優れた数字の読み方を導入して、誰でも何桁でもすぐに言うことができるようにしました。それによって算数王国になったのです。実際、2000年頃まで国際学力

「国家の品格」

日本のこれから、日本人のこれから

講師／お茶の水大学名誉教授・数学者・作家

藤原 正彦氏



市内9法人会合同講演会

日時／平成22年9月7日(火)

会場／中京大学文化市民会館

藤原正彦講演会

共催／名古屋市9法人会

演題「国家の品格」／日本のこれから、日本人のこれから？
講師 お茶の水大学名誉教授・作家 藤原正彦氏



テストで日本はいつも1位でしたが、去年は数学が10位、国語の読解力は15位でした。

「日本は滅びる」と言いましたら、文部省の役人たちは「それはオーバーでしょう。世界200カ国の中で10位と15位なら悪くない」と言いました。でも日本は資源もありませんし、国土の80%が山であり、脳みそで戦うしかない国なのです。それなのに日本の教育が世界一であったことを忘れ、何か困ったことがあるとすぐに外国を見ます。

経済も1980年代は一人勝ちしていて、世界から「日本は日本特有の資本主義、経営方式をやっている」と嫉妬と羨望の目で見られていました。

日本の従業員は会社に忠誠心をもって働いていたし、会社も従業員を年功序列で終身雇用していました。1990年初め、バブルが弾けて、「日本的制度は時代遅れ、早くアメリカ型にしないとバスに乗り遅れる」と、金融のビッグバンから始まって規制緩和、株主至上主義等、とんでもないことをし始め、世界的な経済混沌に入ってしまった。

本当は日本型資本主義がもっとも優れていたのです。従業員と会社は、大企業と下請け、銀行と会社もそうですが、お互いに支え合う人情の関係でした。それがアメリカ型の論理で、契約で割り切る関係になり、日本の国柄が壊されてしまいました。

教育もそうです。1980年代末、日本は経済でつまずいたので、「詰め込み教育はくだらない」と、アメリカやイギリスのように個性、自主性、多様性を尊重する“ゆとり教育”にして、惨憺たる学力の子どもたちになってしまいました。ところが日本が舵を切り替えた頃、アメリカやイギリスは日本の教育を真似し始めたのです。日本の経済が一人勝ちしていたから、日本のように躰や鍛練をして、必要な基礎学力はきちんとたたき込まなければいけないのだ

と考えたのです。最近、教育学者はフィンランドに見習えと言っていますが、私は「ふざけるな!」と言いたいのです。

医療もそうです。2000年にWHOが日本の医療は世界一だと認定しましたが、小泉政権になって、医療費を抑制するために医療制度を改革、後期高齢者医療制度がスタートして年寄りをイジメ、地方の病院を破綻させ、日本の医療が崩れました。

「お天道様が見ている」という美しい発想

日本は“国柄”だけでやってきました。

千年にわたる封建時代と鎖国が終わって明治維新になったとき、たった37年で世界最大の陸軍国ロシアに勝利したのも、戦後、日本中が焼け野原になってもたった30年で日本は世界第二の経済大国になったのも奇跡です。それらのことができたのは“国柄”のお陰です。

もちろん日本は威張れることばかりではありません。私はアメリカの大学に3年、イギリスの大学で1年教えていましたが、トップエリートの層の厚さ、教養の深さで日本は負けています。しかし一般国民の基礎学力は素晴らしく、責任感をもって誠実に仕事をします。納期はきちんと守ります。これらは日本人として当たり前ですが、外国では当たり前ではありません。そういうものを普通に身につけている国柄なのです。

ところが、この十数年の改革によって、人心を傷つけてしまいました。

例えば日本は金銭崇拜主義からはもっとも遠い国でした。1549年にキリスト教の布教に日本にきたフランシスコ・ザビエルの第一声は、「日本人は不思議だ。金持ちが威張っていない。貧乏人が自分を卑下していない」でした。ヨーロッパでは金持ちは威張っていて、貧しいことは惨め



で不幸で恥すべきことだったのです。

幕末から明治維新に多くの欧米人が日本を訪れていますが、ほとんどの人が言ったことは「日本人はみんな貧しそうだ。しかし幸せそうだ」です。その秘密を探ることが21世紀の重大なポイントになると思います。

最近、勝ち馬に乗ることが大事、周囲の形勢を見て有利なほうに付くのが賢い人間で、自らの信条を貫く人はアホだという社会になってしまいました。恥ずかしい光景です。20～30年前までは、有利なほうに動くことは“風見鶏”と言ってバカにされていたのに、それを忘れてしまっています。

また法律に触れないことなら、何でもするようになってしまいました。“法治国家”であること、法律でしか人間の行動を規制できないのは恥すべきことだと私は思います。高貴なる国は、自分の言動を道徳で自己規制します。

昔は万引きなどしたら親を泣かせ、先祖の顔に泥を塗ることであり、「お天道様が見ている」という美しい発想を子どもたちはしていました。いまの子どもたちは法律違反だから万引きしないだけで、誰も見ていなければ万引きしてしまい、「他人に迷惑をかけなければ何をしても良い」と考えています。

日本の御家芸は美的感受性

子どもの理数離れ、読書離れ、非行、エイズ、麻薬、そして社会の治安の悪化の解決策として、私は日本の“国柄”である美しい“情緒”と“形”を挙げたいと思います。

日本人の持つ美しい情緒とは、第一に「美的感受性」です。

日本の古事記、日本書紀、万葉集、源氏物語、平家物語、太平記、徒然草、方丈記など、“日本文学”は世界を圧倒しています。次に素晴らしいのは“芸術”です。天平時代

の彫刻はミケランジェロ級のものがごろごろあると言う美術の専門家もいます。

浮世絵はヨーロッパの印象派の画家たちに大いに影響を与えました。ゴッホは広重の絵を模写し、日記に「浮世絵を見ると、自分が今までやってきた絵画は何だったのか反省せざるを得ない」と書いています。セザンヌは富士三十六景を真似してプロバンス地方の山を写生していますし、モネは部屋を浮世絵で飾り、庭に日本庭園まで造っています。

次に素晴らしいのは数学、理論物理です。理論物理は1年半前に名古屋大学の教授2人と南部先生がノーベル物理学賞をとりました。

それを成し得た重要な資質は、偏差値でもなく知能指数でもなく、美的感受性です。それが日本人の御家芸なのです。

日本人は、花を華道、字は書道、お茶も茶道という芸術にしてしまう異常なほどの美的感受性をもっているのです。こういう資質があったからこそ、その風下の科学技術がうまくいき、工業立国になって繁栄しました。

私は百姓を大事にすることが政治家のもっとも重要なことだと説いてきました。日本人の素晴らしい美的感受性の源泉は美しい自然です。だから美しい自然を保つことが非常に大切で、百姓がいなくなったら日本の田園が荒れ果ててしまいます。

虫の音、桜を愛でる心

美的感受性の変形に“もののあわれ”があります。

ある研究者によれば、虫の音を音楽のように聴くのは世界中で日本人と南洋の一部の人だけのようですし、虫の音を聴き秋の憂愁を感じ、そこに儂い人生を投影します。明治時代のラフカディオ・ハーンは「このような感性をもつ



ているのは、ヨーロッパでは類い稀な詩人のみであるが、日本では一般の人々がその感性をもっている」と驚嘆しています。

木々も美しく、紅葉狩りや花見で、散りかかった最後の輝きに美しさや、もののあわれを日本人は感じます。

自然にひざまずく心も美しいです。欧米人にとって自然は人類の幸福のために征服すべき対象なのですが、日本人にとって自然は偉大なものであり、畏怖心をもってひざまずいてきました。樹木に神々が宿っていると感じ、日本中の神社・仏閣はすべて深い樹木で覆われています。

これらのことを考えますと、人類の幸福のために自然を征服しようと思って、いまの科学技術をもってしたら、アツと言う間に地球の自然環境はなくなってしまう。人は自然に比べればほんの小さいもの、人間は自然の一部に過ぎないという日本人の謙虚な態度・考えを欧米の人たちに教えないと、地球環境はメチャクチャになります。

また日本人の美しい情緒に故郷を懐かしむ心があります。山や川、谷、空、雲、風、光、石ころを見ては、自分の故郷を思い出して涙する日本人だから、世界の人に尊敬・信頼されるのです。

日本の情緒と形を取り戻すことは、人類を救うこと

そして家族愛、郷土愛、祖国愛の3つを持つことが重要で、そうすれば他国の人の思いもよく理解できるのです。こういう気持ちが戦争の抑止力にもなるのです。この3つがきちんと育っていると崇高な“人類愛”が育ってきます。単に人類愛を教えても砂上の楼閣、概念でしかありません。

他にも日本人には美しい“形”があります。それは主に武士道精神からきています。中核は慈愛、誠実、勇気、正義、忍耐です。そして明治時代に新渡戸稲造が挙げた“惻隠”、

つまり弱者への同情、共感、涙する心です。他にも卑怯を憎む心、名誉、恥などがありますが、中でも惻隠は21世紀のキーワードにならなければいけないと思います。

アメリカは建国以来、自由と平等を絶叫してきましたが、欧米のフィクションに過ぎないと私は思います。本当の自由と平等は存在しないから今も達成できないのです。

それより大切なのは惻隠、つまり“弱者への涙”と“卑怯を憎む心”です。

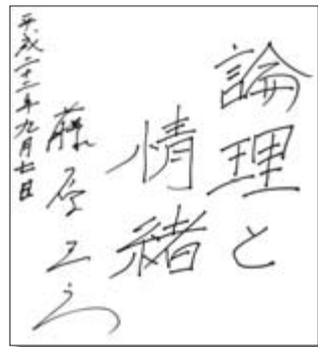
私が子どもだった昭和20年代にも毎日イジメはありました。しかし、ある程度いじめると、誰かから「これ以上やると卑怯だ」という声が必要かかったのです。初期の段階で、そういう声があがるような社会にしなければいけないのです

例えば年長の子どもが年少の子どもを殴ったら、年長の子どもをただちに張り倒すことです。理由は話す必要はありません。強い者が弱い者をいじめること、大勢に一人、男が女を殴ることは卑怯なことなのです。どんな理由があろうと言語道断、小さいときに“卑怯”を徹底的に教えなければいけません。それをしない親は国賊です。子どもの立派な大人になりたいという人権を侵害していることになります。

日本人のすべての人たちが美しい情緒と形、なかでも美的感受性、もののあわれ、家族愛、郷土愛、自然にひざまずく心、惻隠、卑怯などの日本古来のものを取り戻すと、素晴らしい社会国家を取り戻すことができます。

日本人のすべての人が、そのような昔からある日本の情緒と形を取り戻すことは、祖国日本を救うだけでなく、世界中、人類を救うことになります。日本人として生まれてきた本当の意味は、そのような形で人類に貢献することではないだろうか、と私は思います。

※この記事は平成21年9月7日の講演を要約したものです。文責 徳名古屋中法人会



《予告》

市内9法人会合同講演会

たけしのTVタックルのコメンテーター
「屋山 太郎氏」来名!



講師/政治評論家 屋山 太郎氏

演題/どうする日本の政治と外交

日時/平成23年2月22日(火) 13:30~15:00

会場/中京大学文化市民大学 オーロラホール

交通/地下鉄名城線金山駅 徒歩5分

錦三丁目支部事業

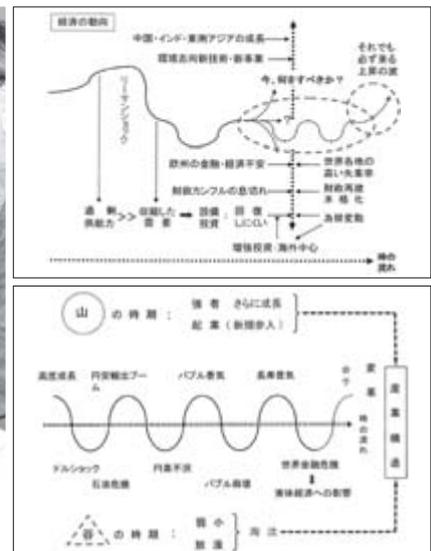
講師／中部大学副学長 **小野 桂之介氏**
演題／経済経営環境動向と経営者の役割



小野桂之介講師



河文



それでも、必ず来る上昇の波

東海地方の景気低迷で、多くの飲食街がある錦三丁目は厳しさも一段と増し、多くの経営者の真剣にメモを取る姿が印象的であった。

小春日和となった日本料理河文「水鏡の間」に、中部大学副学長の小野桂之介氏を招聘した講演は、リーマンショック以後の経済動向の分析と産業構造の変革の流れを明快に説かれ、講演後の参加者の表情に、「『陽は、また登る』の言葉が心に焼き付いた」と感じ取ることができた。

講師は、20年に及ぶ不景気を「谷」と捉え、その中で「淘汰」されない対策として以下の項目を伝授した。

- ① 与信管理の徹底
 - ② 支出予算：引き締め
 - ③ 重要顧客・金融機関との関係フォロー
 - ④ 品質・納期管理：徹底
 - ⑤ 消耗戦：極力回避
 - ⑥ 前向き、必死に「新しい手」を考える
- そして「次の上り坂」に向けて、不況を好機とする企業体質の充実を提言した。

- ① 人材：真のリストラ（構造改革）
辞めてもらいたい人。獲得したい人材。
- ② 今こそ「改善」の好機
危機感。時間の余裕。
人：指導・訓練

機械：止めて、レイアウト改善と設備改造。

- ③ 絞った上の建設・設備投資
建設・調達コスト：割安
カスタム要求：対応
見込み違いリスク：小

④ 全員顧客志向の企業

全員顧客志向の企業活動は、次の上り坂で成功と成長する底力となる。

全員顧客志向を言い換えれば、「購買・生産・営業」の各部門のスタッフが一体となって、顧客の望むものを提供することに尽きる。

給料とボーナスは、経営者が払うのではなく、全て客が払ってくれていることを自覚しなければならない。

仕事とは、自己満足とするものではなく、顧客のためにするもの。その方が「本当に良い製品・サービスができる」と断言する講師の言葉に、今更ながら右上がりの好況時代に忘れがちであったと自戒させられる。

講師は、経営者のなすべき一番大切な事として、「3年後の会社の姿を想像する」「あの時、やっておけばよかったと後悔しない」ことを挙げ、「不景気に必要以上に悩むことなく、今やるべきことをするのが、優れた経営者の姿であり、責任でもある」と提言した。

最後に講師は、参加した錦三丁目の経営者一人ひとりの顔を見ながら、「必ず上昇の波は来ます」と熱いエールを贈った。

新栄支部事業

笑う門に福来る

出演／桂 藤兵衛師匠、宝井 琴調師匠



この一年、東海地方の経済情勢は深刻さを増し、経営者の必死な闘いが続く中、民主党政権は思った以上に頼りなく、名古屋市議会もリコール問題でゴタゴタが続く。年末に清水寺貫主が揮毫する「今年の漢字」は何だろう。

暦は師走に入り、12月1日に発表された今年の流行語大賞は「ゲゲゲの…」が選ばれたが、どうもピンと来ない。仕訳人連舩議員の「2位では、ダメなんですか」、それとも、連日のように報道された「小沢・反小沢」が記憶に残る一年であった。

一方、明るかったのはJリーグ創設にして初優勝のグランパスエイト、プロ野球リーグ優勝の中日ドラゴンズ、それにフィギュアスケート小塚高彦選手のGPシリーズ連破とスポーツの話題のみ。

そんな気分を振り払うべく新栄支部は、「笑う門に福来る～古典落語を楽しむ会～」を開催した。

口演の演目は、講談師宝井琴調師匠の「荻生徂徠出世道」と落語家桂藤兵衛師匠の「浮き世床」である。

「荻生徂徠出世道」は、赤穂浪士切腹を進言した江戸中期の蘭学者荻生徂徠と豆腐屋の演目。その日の食事も事欠く貧窮時代の徂徠を助けた江戸っ子の豆腐屋との滑稽なやり取りは、笑いのなかにも人情味たっぷりて心が洗われる。

桂藤兵衛師匠の演目「浮き世床」も、江戸時代の町人たちが髪結床で緑り広げる愉快な一席。

妙齢の熟女と芝居小屋で知り合い、食事を御馳走になり、その上枕を共にするという仲間の浮世話（実は夢）に、鼻の穴を大きくして聞き入る長屋の男衆の滑稽な姿が目につく。

“髪結床”なら床屋とすぐわかるが、「オッ、近くにヘアサロンなんて洒落た店ができたから、床屋で髪を整えて身綺麗にして行って見よう！」と、何でもかんでもカタカナにしてしまう今のご時勢を皮肉って笑わせた。

両師匠は情報交換会にも出席した。桂藤兵衛師匠は「名古屋とかけて…」「ととのいました」「中日ドラゴンズ、和田選手の2本の満塁ホームランと解く…。その心は、得点8点…発展する!!」と今年の流行語にも選ばれた「ととのいました」を取り上げ、中締めという言葉を見事に決め、拍手喝采を浴びた。

■レポート

中法人会新栄支部地域社会貢献事業は、公益法人化を目指す法人会の一環事業として、名古屋開府400年に因み2年前より文化講演を企画して参りました。

初年度は狂言、昨年度はジャズを企画実施いたしました。今年度は3回目を迎え、「古典落語を楽しむ会」を計画し落語と講談の口演を中日パレス会場満席のなか賑々しく開催することが出来ました。

最初に、軽やかなお囃子に乗って宝井琴調師匠の登座で開演となり、出世した徂徠が世話になった豆腐屋に恩返しをする「荻生徂徠出世道」の一説を、笑いを誘いながらの語りグイグイ惹き込まれて聞き入りました。今日の日本人に失わ

れつつある助け合いの心、惻隱の情に触れ、心が洗われ清々しい気持ちになりました。

次に、真打ち桂藤兵衛師匠が登座し、メリハリの利いた語り口で爆笑を誘いながら人間の願望、欲望を語った「浮き世床」を夢物語の落ちに大爆笑で幕となり、両師匠の熱演に楽しいひと時もアツと言う間に終了となりました。当地区は数年前より景気の低迷も全国一と暗い世情の中、久しぶりに大きな笑い声、笑顔を見聞、発して心の明るさを取り戻せた気がしました。

口演後、懇親会場に移り、両師匠の楽しい裏話も拝聴しながら大いに盛り上がり、名残りを惜しみながら閉会となりました。

report／新栄支部事業委員長 西垣 廣忠